りんご栽培情報 第３号

令 和 ５ 年 ５ 月 ２ ３ 日
Ｊ Ａ ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

１ 概況

「ふじ」の着果状況は、良となっています。

今後は、着果の多い樹から摘果作業を進めましょう。また、若木については、土壌の水分状況を確認し、適宜かん水を行いましょう

梅雨の時期を迎えますが、散布間隔があきすぎないよう定期的に薬剤散布を行うとともに、ほ場をこまめに観察し、病害虫の発生状況を確認しましょう。

２ 病害虫防除（成木基準）

（散布量：500ℓ／10ａ）

回	時期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100ℓ当たり必要薬剤量
7	6月初旬	黒星病、斑点落葉病、褐斑病 ハマキムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ （果実の表皮障害防止） （展着剤）	デランフロアブル ダイアジノン水和剤34 クレフノン マイリノー	2,000倍 1,000倍 100倍 20,000倍	50 mℓ 100 g 1 kg 5 mℓ
8	6月上中旬	斑点落葉病、褐斑病、輪紋病 褐斑病 ナミハダニ、リンゴハダニ （展着剤）	フロンサイドSC トップジンM水和剤 ダニゲッターフロアブル マイリノー	2,000倍 1,500倍 2,000倍 20,000倍	50 mℓ 66 g 50 mℓ 5 mℓ
9	6月中下旬	**【非ボルドー体系】** 斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病 シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ、カメムシ類 （展着剤）	ダイパワー水和剤 サイアノックス水和剤 マイリノー	1,000倍 1,000倍 20,000倍	100 g 100 g 5 mℓ
		【ボルドー体系】 斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病 シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ、カメムシ類 ※1	ICボルドー412 サイアノックス水和剤	30倍 1,000倍	3.3 ℓ 100 g

※1：展着剤は使用しなくても支障はありません。

【コンフューザー利用殺虫剤削減体系】

・防除暦７回目のダイアジノン水和剤 34 は、害虫がいない場合省略できます。

【殺ダニ剤を使用する場合】

・殺ダニ剤の効果を高めるため、殺ダニ剤の散布の前には草刈りを行いましょう。

３ 仕上げ摘果

・仕上げ摘果では、「ふじ」は４～５頂芽（50～60 葉）に１果の割合で残しましょう。

・樹勢が強い樹や上がり枝、樹冠外部などは着果量を多めに、樹勢が弱い樹、下がり枝、樹冠内部などは着果量を少なめにしましょう。

・成熟期に果実同士がぶつかり合わないように、間隔をあけて着果させましょう（果実と果実の間隔は 15～20cm 程度が目安）。

【摘果する果実の例（図１）】

・形の悪いもの、小さいもの、病害虫被害果

・果台長が２cm 以上、果台枝が 20cm 以上の長いもの（青実果になりやすい）

・30cm 以上の結果枝の先端（腋芽を来年の優良な短果枝に育成するため）

・着果が少ない場合は、多少形が悪いものも残し、樹勢が強くなりすぎないようにする。

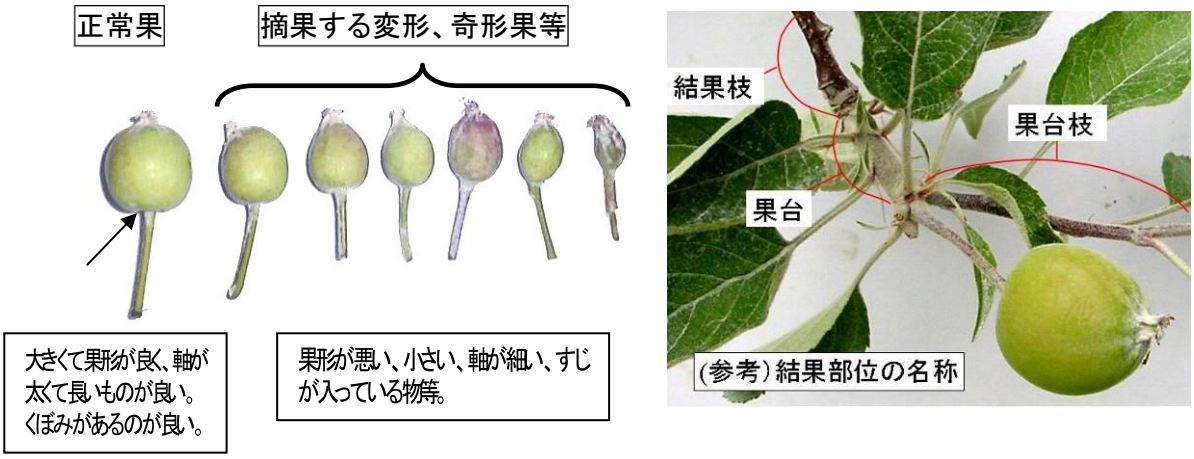

図1　摘果する果実の例

仕上げ摘果は、満開 60 日後（６月中旬頃）までに終わらせましょう。

４　徒長枝の整理

・主幹や主枝から多数の徒長枝が伸び、混みあっていると、褐斑病やハダニ類の発生源となるため、主幹から１m程度先までの主枝上の徒長枝はすべて切除しましょう。

・主幹から１m以上先の主枝の背中から伸びた徒長枝は、強いものを中心に整理しましょう。

・極端な整理は、日焼けや樹勢衰弱を招くので、注意してください。

５　ハダニ類の発生に注意

・近年、ハダニ類の発生時期が早い傾向にあります。葉の裏や下草にハダニ類がいないか、ルーペ等で随時確認し、初発を注視してください。葉がかすれたり、葉の裏が茶色になっていたりすると、ハダニ類が発生している可能性があります。

・殺ダニ剤の効果を高めるため、殺ダニ剤の散布の前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上に移動した後に殺ダニ剤を散布しましょう。

★　農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
　　また、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

★　熱中症予防のため、こまめに水分を補給しましょう。